

研究班からの報告

国立精神・神経医療研究センター
藤井 千代



入院者訪問支援事業に関する研究

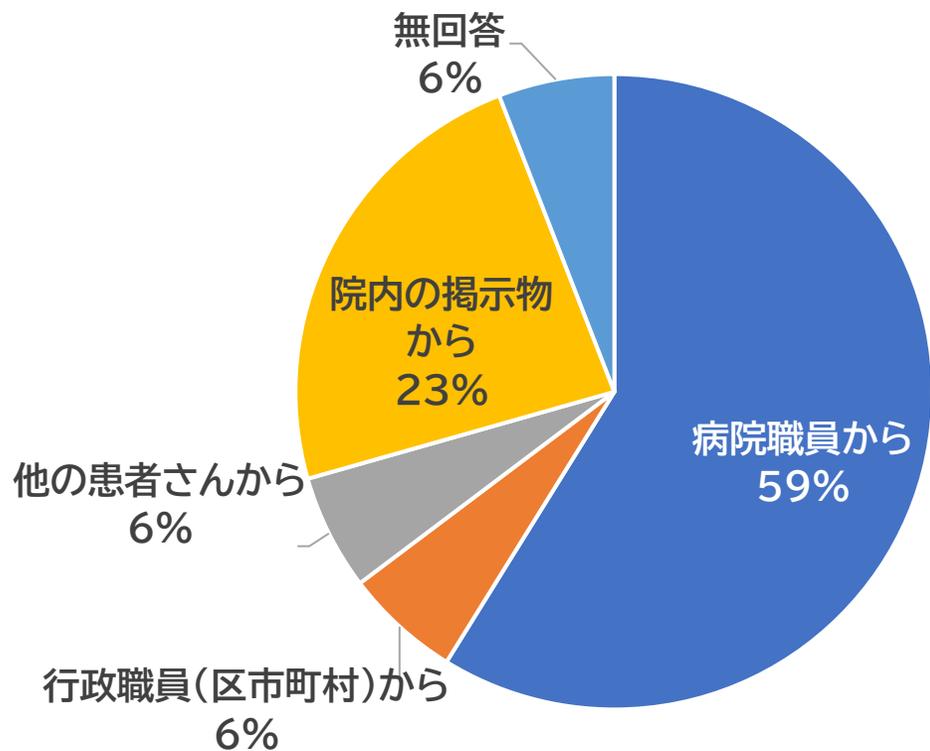
- ✓ 入院者からの事業評価に関すること
- ✓ 病院スタッフから見た事業への期待と懸念に関すること
- ✓ 訪問支援員が抱えるジレンマと必要なフォローアップに関すること



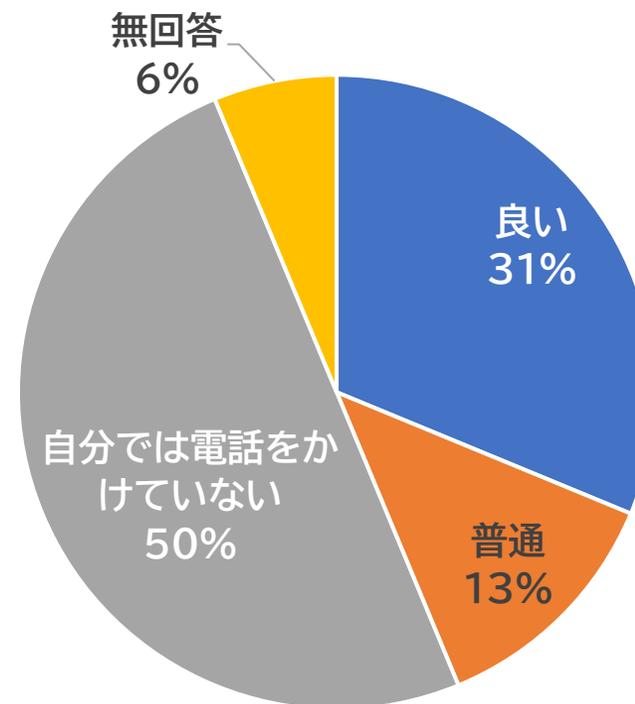
参考

某自治体:令和7年11月1日~1月13日 N=16(回答率55.2%)

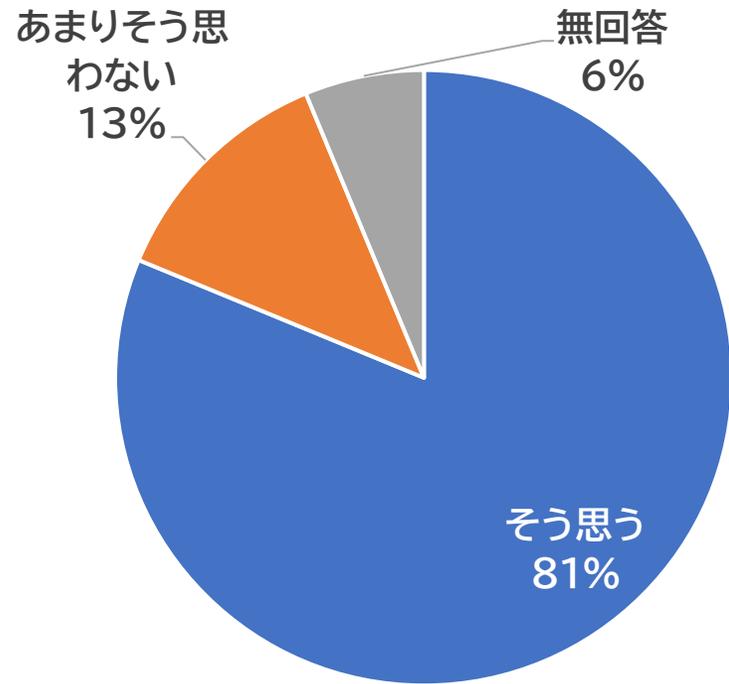
入院者訪問支援事業をどこで知りましたか？



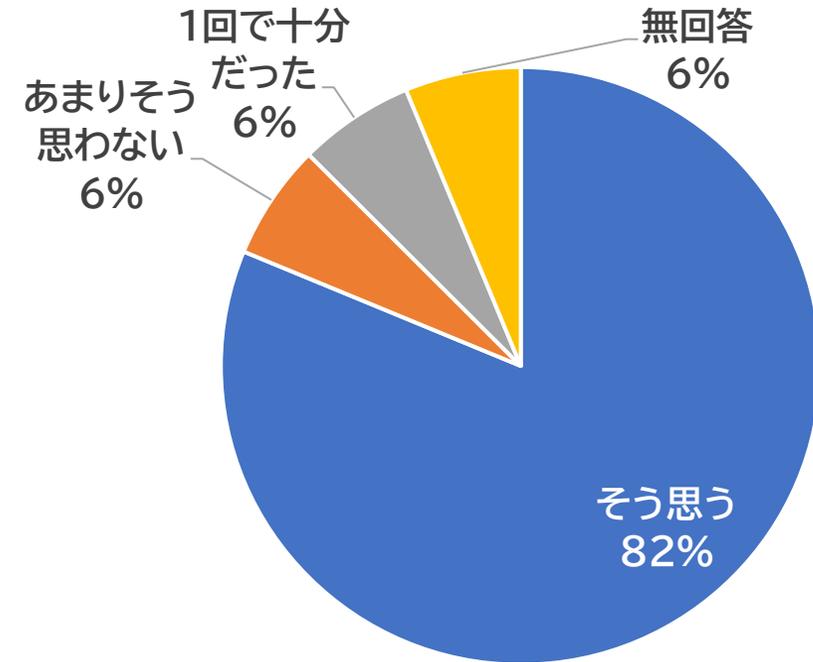
訪問依頼の電話をかけたときの対応はいかがでしたか？



支援員と話ができて良かったと思いますか？



また依頼したいと思いますか？



ご意見

- まだ退院していないようだったら又そうだんにのっていただきたいと思います おねがいたします
- 心すくわれました。
- 心切でした
- 12月げじゅんに向けて退院なる ありがとうございます！ 話をきいてもらえてうれしい！ 感謝の気持ち大切ですね！ 感動しました THAKvUv Very madh !
- 本当に、心から、相談にのって頂き、ありがとう、ございました。時間の制限が、ありますが、それだけが、ネックでした。ですので、もう少し詳しくやりたかったです。又、よろしくお願い致します。
- また、楽しくため
- 来て下さり有がとうございます

入院者アンケートの実施を希望される自治体へのご協力

- ✓Q1～4は共通項目
- ✓はがきに無理なくおさまる範囲であれば、項目の追加可
- ✓返送先は、国立精神・神経医療研究センター(回答をエクセルに
入力)
- ✓ご希望の自治体担当者様に、印刷済みはがきと情報保護シール
を必要部数送付



- ✓自治体ごとに独自URLを付与、
ウェブ上で自治体の個別デー
タと全体の集計結果(共通項目)
を閲覧していただくことが可能

<病院スタッフインタビュー結果より>

入院者訪問支援事業に期待すること(実施前)

孤立感の改善と関わりの創出:

誰も面会に来ない患者の孤立感を改善できるのではないかと「隣のベッドには家族が来るが自分には来ない」ような方に「自分も誰かが気にかけてくれている」と感じてもらえるといい

気持ちの整理:

第三者に話を聴いてもらうことで、患者が自分の気持ちを整理したり、望んでいることを表出したりできるようになるのではないかと結果的に、患者が落ち着き、病院の負担軽減になるかもしれない

外部の視点:

普段接している職員とは異なる「外部の人」の視点が入ること



入院者訪問支援事業への懸念(実施前)

業務負担増加への懸念:

外部の人が入るための準備など、病棟スタッフの業務負担が増えるのではないか

新たな制度自体を理解すること自体の負担感、戸惑い

外から人が来ることへの抵抗:

普段から患者と一生懸命コミュニケーションを取っているスタッフほど、「自分たちが関わっているのに、なぜあえて外から人を呼ぶのか」という抵抗感が生じる傾向

会話内容を聞けないことへのモヤモヤ・違和感:

内容をきいてはいけないため、スタッフが気を遣ってそのことに触れない(声をかけなくなる)のではないか



<病院スタッフインタビュー結果より>

訪問支援員を受け入れてみてよかったこと(実施後)

患者の満足感:

多くの患者が「話を聴いてもらえてありがたい」と満足感を表出している

ガス抜き・気持ちの整理:

病院スタッフや家族には直接言えない不満や文句を第三者に話すことで、患者の気持ちが整理される場となっているらしい

悪影響がない:

外部の人間が入ることによる患者への悪影響や混乱は、現在のところ見られていない
(「支援員は親切に聞いてくれるのに病院は聞いてくれない」といった不満は出ていない)
特に業務負担は増えていない



今後に向けての課題

本来想定していた患者の利用につながりにくい:

「本当はこの人が対象なのに」という人ほど勧めても利用しない

事業理解の難しさ:

「何もしてくれない」ことへの不満を持つ患者もいる
事前の事業説明でどう伝えるかが難しい

情報共有のあり方:

守秘義務と支援上の必要性のジレンマ
患者の同意を得た上で、重要な情報をスタッフと共有・相談できる仕組みがあるとよい

院内での理解の平準化:

スタッフによって事業理解のしかたにばらつきがある

回数制限の考え方・その先の支援:

次の支援への移行、「話したい」ニーズを地域サービス等が担えるかどうか、検討が必要



病院スタッフ向け説明資料(動画)の作成



研究協力者、病院関係者からのフィードバックを踏まえて内容を確定し、ご希望の自治体には資料提供いたします。

入院者訪問支援事業とは？

—地域とともに入院者を支えるしくみ—



入院者訪問支援事業の概要

実施主体: 都道府県・政令指定都市

支援対象者: 精神科に入院中の方
(市町村長同意の医療保護入院者中心)

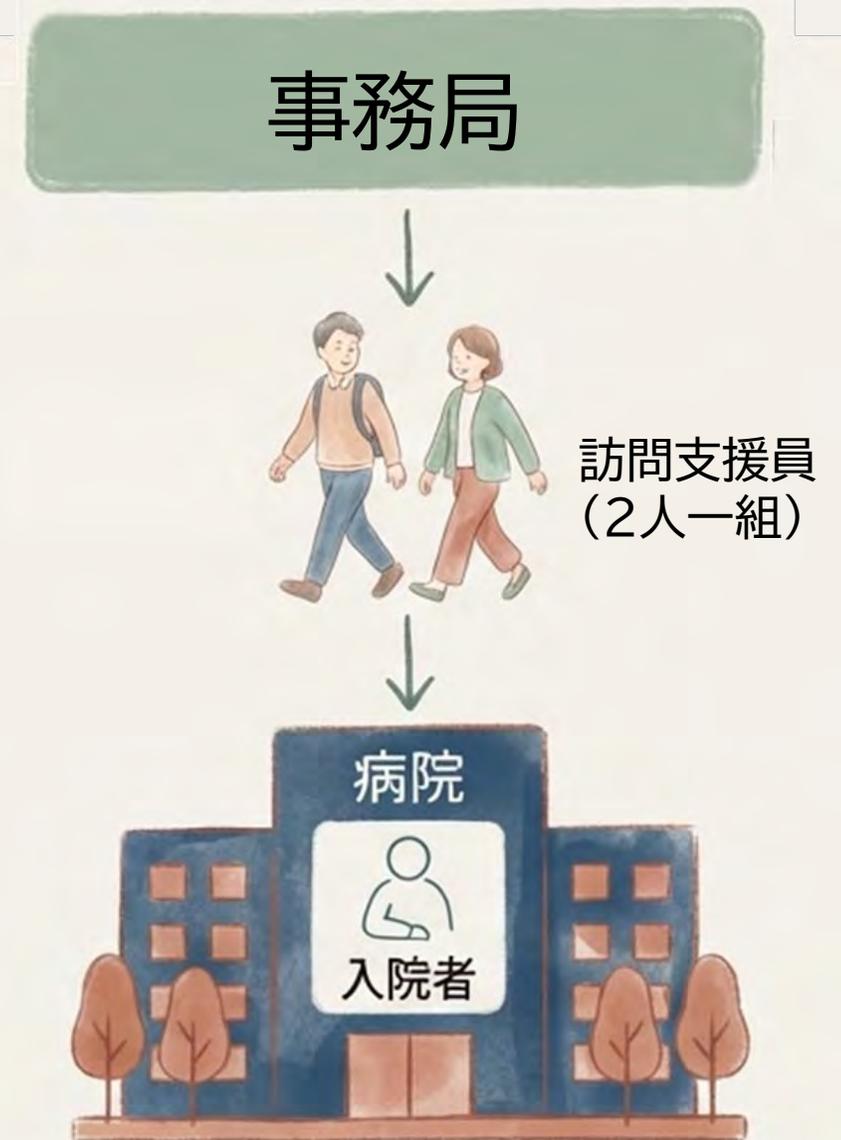
実施内容:

支援対象者からの求めに応じて、入院中の病院を訪問し、支援対象者の話を傾聴するほか、必要に応じて支援対象者に情報提供する

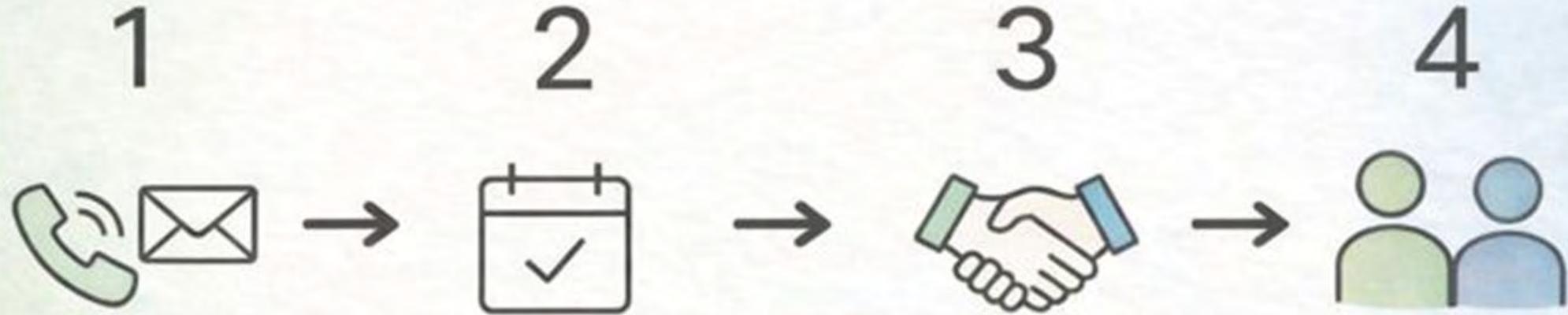
訪問支援員とは:

都道府県知事が認めた研修を終了し、知事が選任した者

(根拠法:精神保健福祉法)



訪問支援員派遣までの流れ



面会希望:

入院者本人もしくは、市町村長同意の担当者又は精神科病院の退院後生活環境相談員等を経由し、都道府県等(事務局)が面会希望の連絡を受ける

面会日の調整:

事務局は訪問支援員に登録した者の中から、2名に訪問を依頼し、面会日の日程調整を行う

病院への連絡:

事務局は面会日を病院に連絡し、その他必要な調整を行う

訪問・報告:

訪問支援員が2人一組で入院者を訪問し、事務局は訪問後に支援員から報告を受ける

訪問支援員が「すること」と「しないこと」

✓ すること



傾聴：気持ちや体験を丁寧に、誠実に聴く



対話：考えや希望を整理するのを手伝う



情報提供：本人が利用できる相談先や制度などについての情報を提供する



応援する：エンパワメント、本人の希望があればスタッフと本人が話をする場に同席

✗ しないこと



直接支援：直接的な援助やサービス提供



調整・仲介：サービス利用の調整や家族との仲介

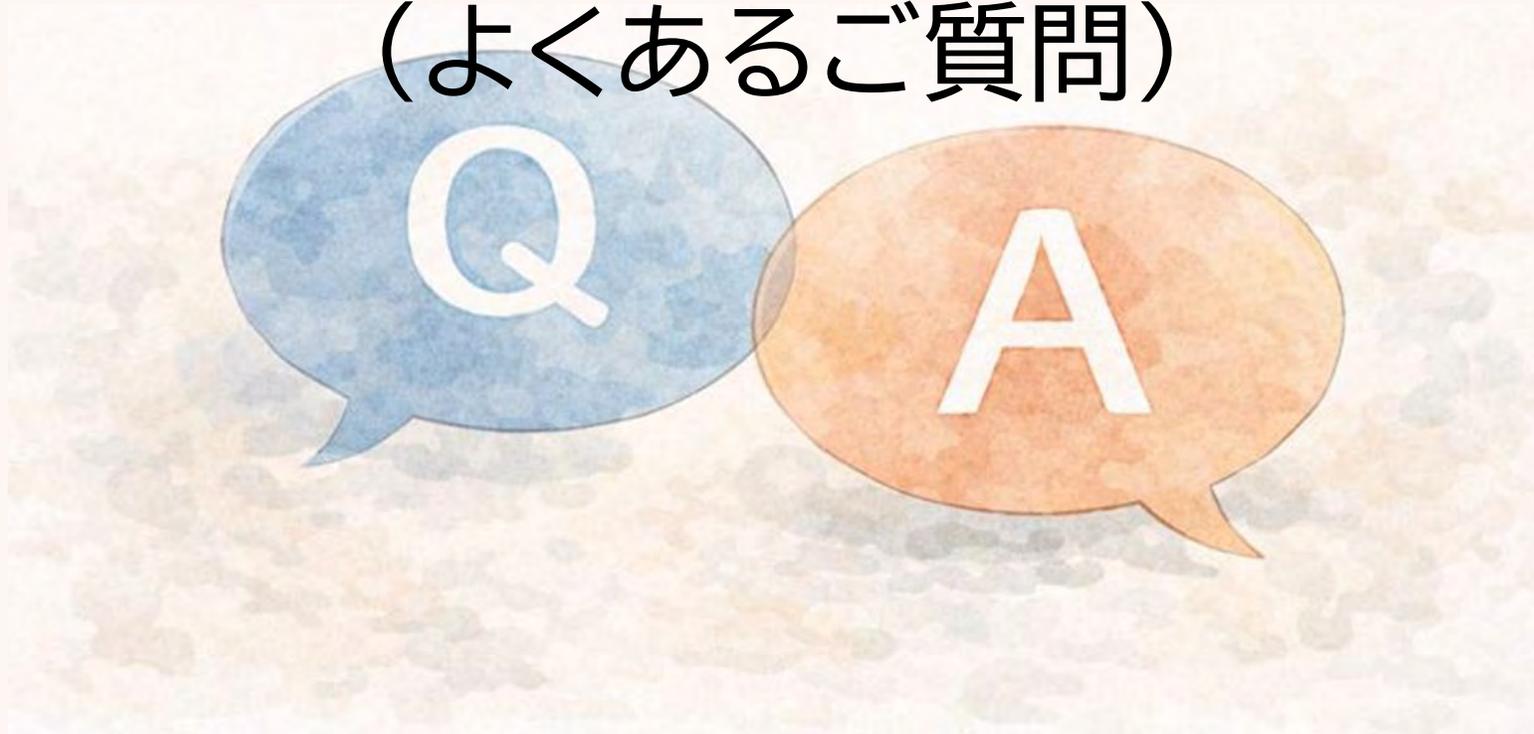


代理・代弁：本人に代わって何かを決めたり、交渉したりすること



医学的判断：治療方針や薬について意見を述べたり、判断したりすること

入院者訪問支援事業Q & A (よくあるご質問)



病院スタッフが感じるかもしれない「もやもや」



- ✓ 権利擁護の仕組みってことは、精神科では患者さんの権利を侵害してるって思われてる？
- ✓ 自分たちのケアが否定されているみたい…
- ✓ 家族でもない他人が外から来て、何ができるの？
- ✓ 傾聴や情報提供なら、私たちが日ごろからちゃんとしてるんだけど…

その「もやもや」、当然です。

患者さんのことを真剣に考え、専門職として誠実な医療やケアを提供しているからこそその疑問です。

スタッフの人柄やケアの質とは関係なく存在する「構造的な壁」



注)感じ方には個人差が大きく、すべての入院者にあてはまるわけではありません。

病院への面会の意義

コロナ渦の病院への面会制限を思い出してみましょう

面会制限による影響

- ✓ せん妄増加、不安・孤独感の増大(精神科に限らず)
- ✓ 孤独感と病状悪化の関連が指摘
- ✓ 面会は入院者の自然なニーズ



Aさんの場合

Bさんのところ、今日もお母さんが来てるんだ…
僕は家族いないし、友達には精神科入院は知られたくないから、面会がなくても仕方ないか。



入院には納得してないけど、先生も
看護師さんも優しいし、思ったほど
居心地悪くないしな。

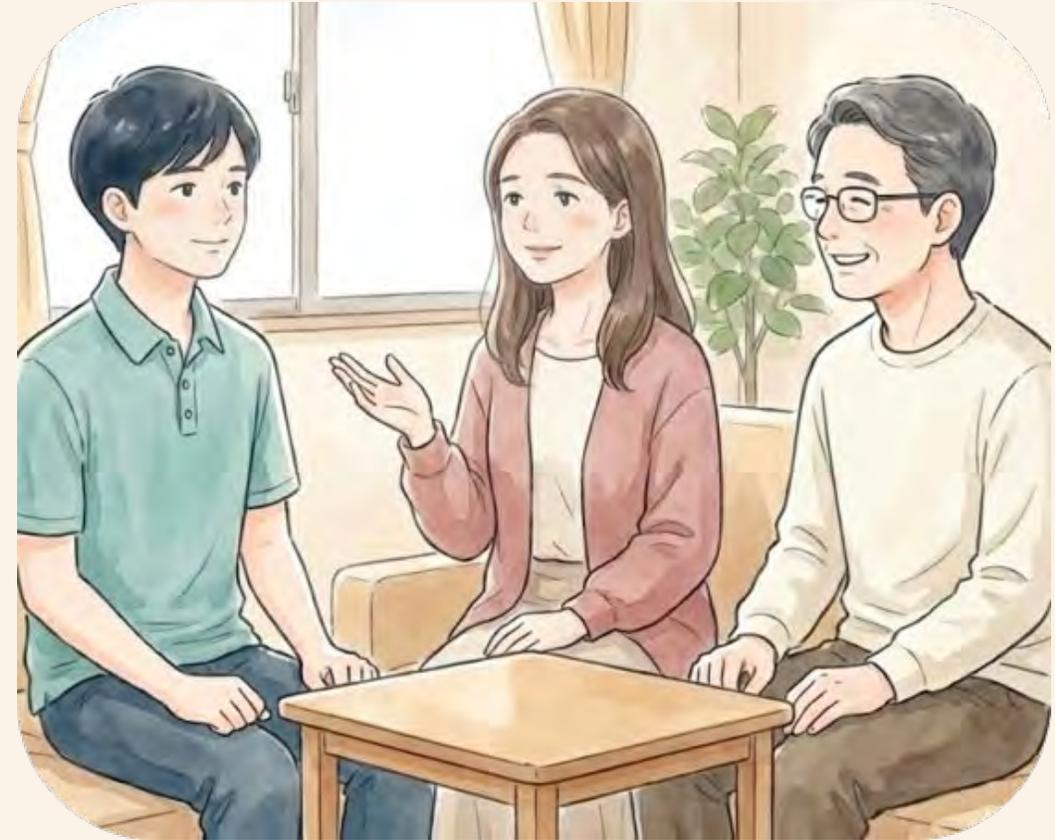
…でも、やっぱりBさん
うらやましいな。

Aさんの場合(つづき)

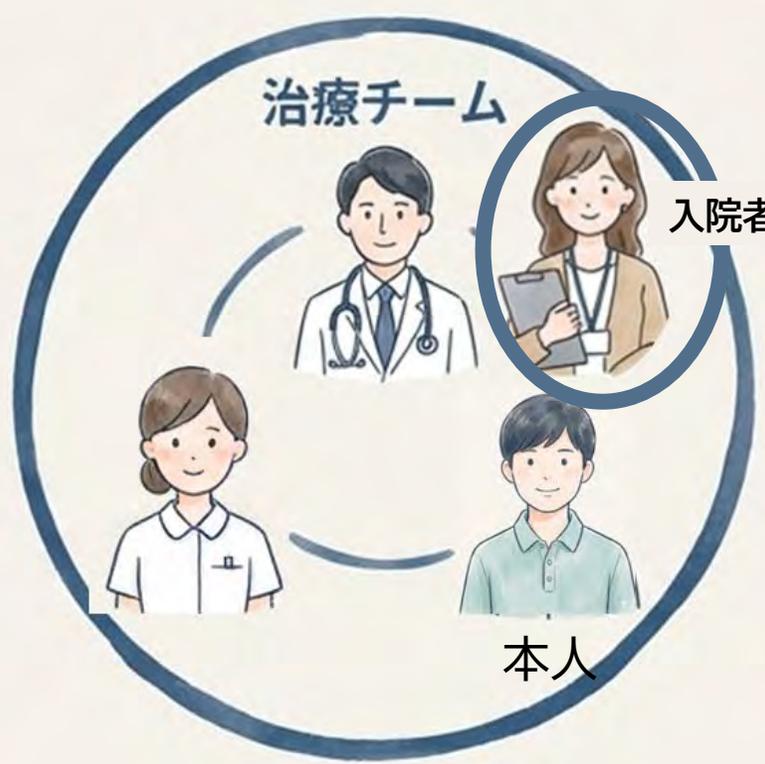
ワーカーさんにおしえてもらった「入院者訪問支援」、思い切って頼んでみた。
とりとめのない話したただけだけど、なんだかちょっと気が晴れた。

早く元気になりたいし、リハビリがんばってみるか。
ずっと断ってきたOT、明日は試しに行ってみようかな。

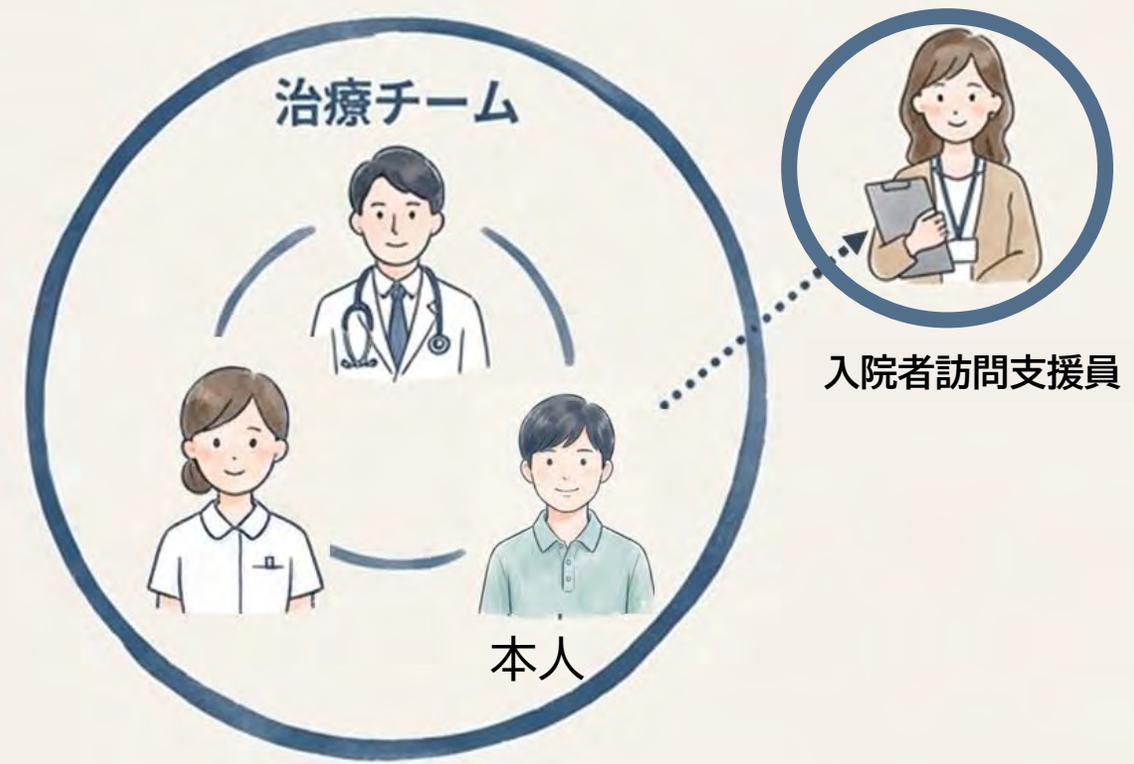
そうだ、ワーカーさんにお礼言わなきゃ。



訪問支援員も治療チームの一員になるのがよいのでは？



治療チームの一員になると、本人からは「病院側の人」に見え、言いたいことを言えなくなるかもしれません。



病院と関係しない立場の人だからこそ話せることがあります。

- 治療への影響を考えなくてよい:「スタッフにどう思われるか」の気兼ねなく話せます
- 人間関係に配慮しなくてよい:一期一会、「いいっぱなし」でよいことの安心感

入院者訪問支援で期待できること

適切な相談先や専門職に「つなぐ」



「そのお話は、病院のワーカーさんも相談にのってくれると思いますよ」といった提案(情報提供)をするなど、適切な相談先に「つなぐ」ことができます

病院スタッフ向け説明資料(一部・案)

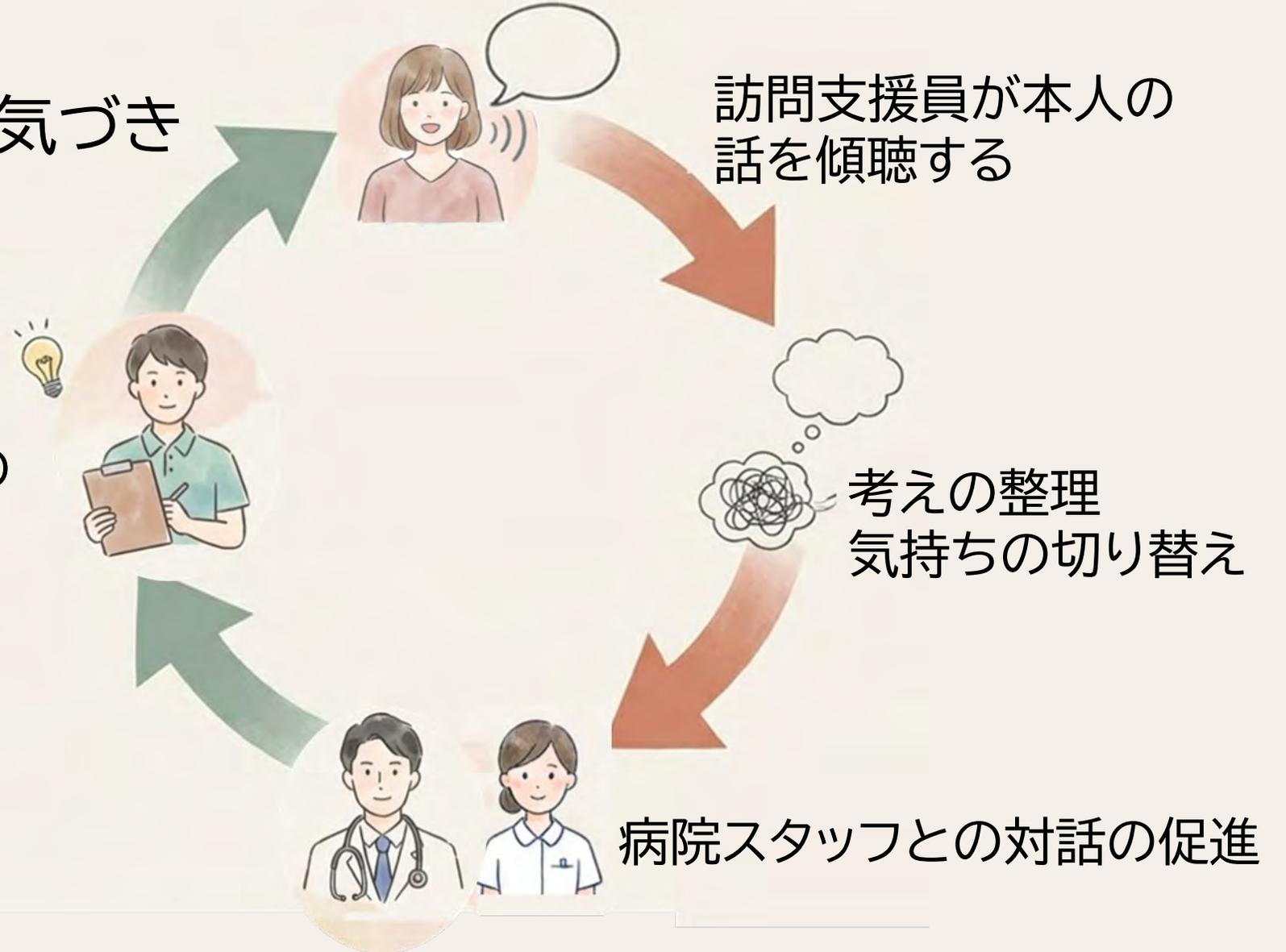
入院者訪問支援で期待できること
本人のエンパワメント
病院スタッフの新たな気づき

本人のニーズへの
新たな気づき

訪問支援員が本人の
話を傾聴する

考えの整理
気持ちの切り替え

病院スタッフとの対話の促進



病院スタッフ向け説明資料(一部・案)

入院者訪問支援で期待できること

入院中も地域・生活の場とつながっている感覚を持てる



入院者訪問支援で期待できること

住民の精神科病院に対する誤解・イメージの修正

外部の人が入りにくい閉鎖的な空間



誰もが利用できる専門的な医療機関



よりよい制度にするために



制度を利用された方、病院スタッフのみなさま、訪問支援員のみなさまのご意見を伺いながら、よりよい制度にしていきたいと考えています。
みなさまの率直なご意見を、厚労省・都道府県・事務局にお寄せください。



ご清聴ありがとうございました